

2018年度

川崎市視覚障害者情報文化センター
事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

1. 総括

川崎市視覚障害者情報文化センターの事業方針は、視覚障害者市民にいつも「頼られるセンター」を目指しています。図書の貸出、自立支援訓練、用具の斡旋に加え、映画の上映、ヨガ、音楽コンサートなどのイベントも積極的に開催し、日常生活のQOLを高めると共に、文化に触れる機会を提供し、視覚障害者が一市民として心豊かな毎日を過ごせるよう支援を行います。

5年目にあたる2018年度も、上記方針に沿って事業を進めてまいりました。特に本年度は、地域に根ざし、より利用者に寄り添ったサービスを行うために、「遠方でセンターに来ることが難しい」という声のある麻生・多摩・宮前区の北部3地区の福祉まつりに参加し、センター事業の紹介を行いました。

事業実績としては、図書の利用登録者が約7%増え、それに伴い貸し出し数も順調に伸びました。また、点字図書、録音図書も目標通り製作することができました。音訳者の養成講座を開講し、8名の音訳者を育成することができました。訓練については、「相談」という課題解決のための短期的なサポート（2回～5回程度）が2017年度以上に要望があり、約13%増えています。視覚障害者の生活を便利にする用具（グッズ）も、これまでと同様の斡旋を行いました。購入後の操作説明、機械の調子が悪いといったアフターフォローも行っているため、安心して購入していただいています。また、市民に視覚障害者のことを理解してもらうために、小中学校や公民館などに出向き、視覚障害についての講演を行い、白杖歩行体験会、点字体験を行いました。

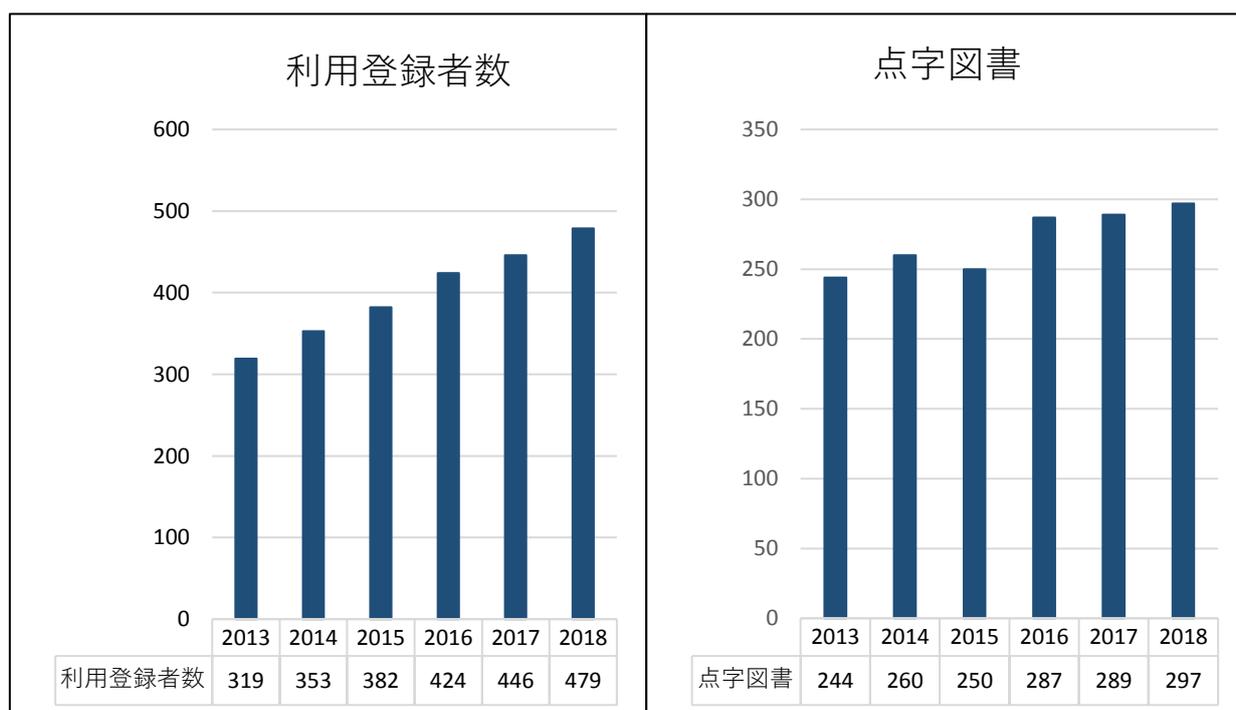
“情報文化センター”として、文化の発信も行いました。音楽コンサート、音声解説付きDVD映画体験上映会、国立国会図書館が配信している歴史的音源を聴く「れきおんクラブ」、「川崎アイ eye センターまつり」、ヨガ体験会などを開催しました。音声ガイド付き上映会は来場者が徐々に増えてきており平均34名の来場がありました。「川崎アイ eye センターまつり」では、視覚障害者向けのネイルサロン、音声ガイド付きの電気製品体験など、視覚障害者のニーズに沿った企画を行いました。また、初めての試みとして、日本点字図書館のふれる博物館で開催された企画展「宇宙をさわる」を当センターに移設して開催しました。多くの天文ファンが来場され、説明を聞きながら宇宙に思いを馳せ、展示物に触れていただきました。

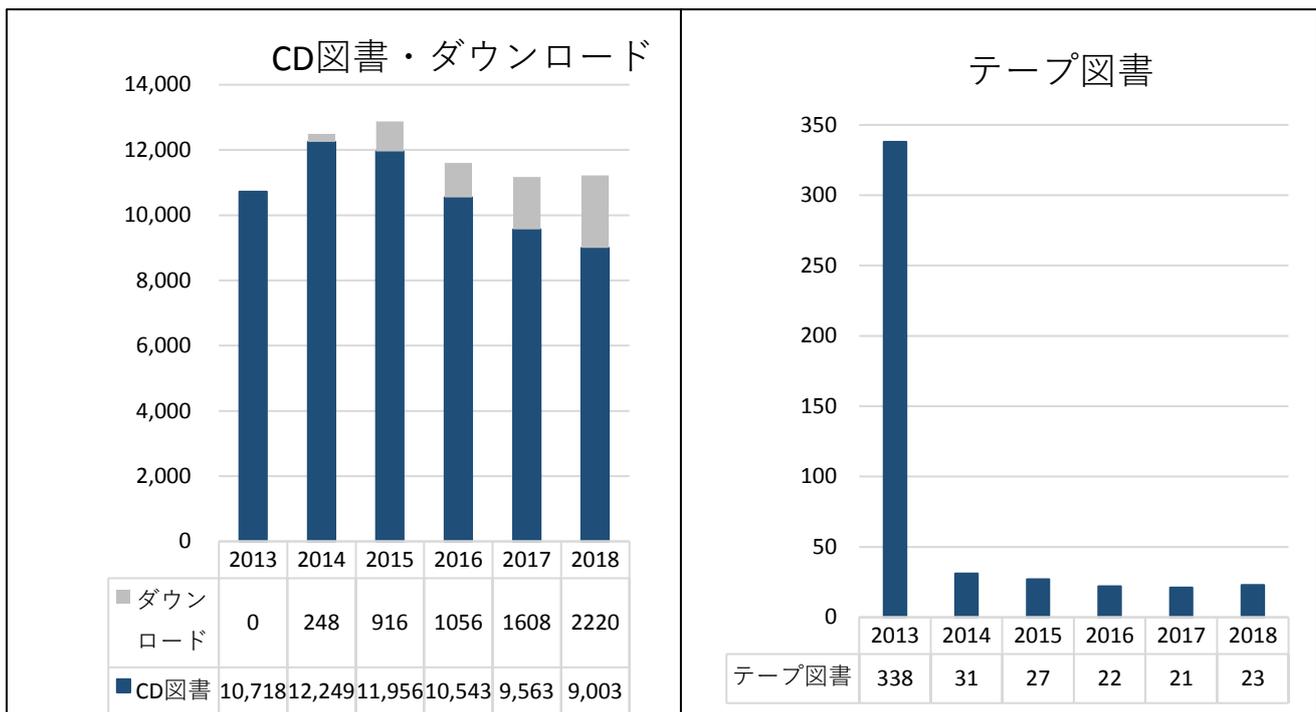
2. 事業成果

① 点字図書館事業（図書の貸し出し/製作/ボランティアの養成）

（ア）図書の貸し出し

利用登録者、点字図書、テープ図書、CD図書の貸し出し状況を以下のグラフに示します。利用登録者数は479名となり、川崎市盲人図書館時代（2013年度319人）の約1.5倍になっています。貸し出し数は点字図書が297タイトル、点字雑誌が243冊でした。録音図書はCD図書が9,003タイトルと2017年度に比べ若干減少しています。CD雑誌の貸し出しは4,435枚となっています。一方でSDカード・CFカードを使って貸し出す方式(注1)は、録音図書が2,220タイトル（2017年度は1,608タイトル）と前年度比の1.3倍に伸びています。一度に10タイトルを一回のカードのやりとりで聴くことができる便利さから、利用者が増えていると思われます。また、当センターの製作図書をサピエ図書館に直接アクセスしてダウンロードする件数も伸びており、点字図書1,363タイトル、実利用者5,336人。録音図書が1,017タイトル実利用者51,864人となっています。このような事から全国的に視覚障害者の図書の利用方法が変化していることが推測されます。サピエ図書館に直接アクセスできる新型の機器（プレクストークPTR3）が2018年6月に発売され、タブレット端末用のアプリが12月に販売されたこともあり、今後データの直接利用が増えていくと思われます。





注1) 当センターでは貸し出し方法のひとつとして、ダウンロードサービスを行っています。これは、パソコンの使用が困難な利用者のために、利用者に代わってサピエ図書館から希望の図書をメモリーカード（SDカード・CFカード）にダウンロードするサービスです。利用者個人のメモリーカードを使用するので貸し出し期間の制限もなく、人気の図書の予約待ちもありません。これによって、サピエ図書館でダウンロード可能なすべての資料をご利用いただけます。

(イ) 点字図書・録音図書・音声ガイドの製作

点字図書は目標を超える 50 タイトルを製作いたしました。また、個人の希望図書を製作するプライベートサービスは、22 タイトル製作しました。

録音図書は 100 タイトルを製作し、目標（100 タイトル）を達成することができました。またプライベート製作は 12 タイトル製作し、テキストデイジーという新たな方式の図書が 4 タイトル（2018 年度 3 タイトル）、PDF 化（ロービジョン者がタブレット端末で利用したいという希望のため）を 3 タイトル製作しました。

シネマ・デイジー（映画本編のサウンドトラックに、場面を説明する音声解説を付けデイジー図書にしたもの）は、センターで養成したボランティアにより 9 タイトル製作（2017 年度 6 タイトル）することができました。委託製作の 12 タイトルとあわせて 21 タイトルを製作しました。

(ウ) 点訳ボランティア、音訳ボランティア、音声ガイドボランティアの養成

本年度は音訳者養成講座を開講し、8名の方を養成することができました。今後音訳者として蔵書の製作をしていただきます。また、ボランティアのレベルを向上させるスキルアップ研修会も開催しました。点訳者に5回開催し、79名の方に受講していただきました。音訳者には朗読した音源を元に、校正者が校正箇所を具体的に説明する研修会を開催しました。また、映画の音声解説を製作するボランティアは、音声ガイドの原稿を自ら製作しています。ガイドをよりの確に表現するためのスキルアップ研修会を4回開催しました。

② 相談・訓練事業の取り組み

(ア) 相談・訓練実績

歩行訓練は、訓練全体の5割を占めています。具体的には、コンビニ、病院、文化スポーツ施設、美容院、当センターなど本人の希望する場所に、白杖を使って一人で行けるようにする訓練です。パソコン訓練は、音声読上げ機能を使ってキーボードのキータッチを習得してもらうことから始め、ワード、エクセルの操作、視覚障害者専用ソフトを使ってメールやインターネットを楽しむことができるように指導しています。

また、全体としては訓練よりも相談（短期的なサポート）の割合がここ最近の傾向として増えています。短期サポートの内容は、進学、就職、人事異動、引越しによる通勤通学経路のみの歩行訓練、就労継続や求職活動における他機関の紹介、さらなる視力低下による生活相談、スマートフォン、iPad等の最新機器の情報提供や操作方法、録音図書再生機の操作方法などがあります。また、センターで購入された時計や拡大読書器など用具・機器類の操作指導や故障対応などアフターフォローにも対応しています。利用者の高齢化によって長期的な計画に基づいた訓練を希望される方より、生活の困りごとを改善できる方法を一緒に考えたり、高齢福祉サービスを利用するための情報提供や連携を希望される方が増えています。たとえば地域包括支援センターからも数件のご紹介をいただいています。今後も川崎市内の高齢福祉関係機関と連携し、センターが早い段階で関わるできるよう、関係を強化していきたいと思えます。

<訓練>

	人数	回数
歩行	22	314
パソコン	9	164
点字	4	87
生活	1	25
その他	6	29
計	42	619

<相談>

	人数	回数
歩行	50	115
パソコン	20	33
点字	3	4
生活	45	86
その他	32	58
計	150	296

(イ) 訓練生同士の懇親会（ぶらぶら会）の開催

「ぶらぶら会」は訓練生同士が気楽に集まる交流会として開催しています。2018年度は1月18日に川崎大師に初詣に行ってきました。普段外出の機会が極端に少ない方、クリスマスでお寺にはあまり行ったことのない方3名と、センターで普段ボランティアして下さっている方1名、訓練担当職員4名が参加しました。お正月の余韻がまだ残る活気付いたお寺の境内では、お線香の匂い、お経や鐘の響きを楽しみました。「とんとこ飴」を包丁で切る音があちこちから聞こえてくるにぎやかな参道でお買い物を楽しみつつ、この1年の無事をみなで祈りました。

(ウ) 訓練生屋外交流会の開催

センターでは、歩行、パソコン、点字、調理等すべての訓練は訓練生と指導員マンツーマンでおこなっています。また自宅での訪問訓練も多いことから、訓練生同士つながりを持つ機会はあまりありません。そこで訓練生同士の交流や親睦を深めることを目的に、年に1度川崎市の福祉バスをチャーターして屋外交流会を実施しています。センターの前身である川崎市盲人図書館時代から続いている恒例お楽しみ行事のひとつです。

10月19日（金）訓練生12名と付き添い、センター職員合わせて総勢28名で「横須賀くりはま花の国」に行ってきました。本来見頃を迎えているはずのコスモス畑が塩害で刈り取られていましたが、広い園内をトレインに乗って移動し、足湯につかって体を温め、ハーブ園ではさまざまな種類のハーブを触ってにおいのかいで、楽しんでいただきました。昼食は東京湾を一面見下ろせる見晴らしのよいレストランで、テーブルごとに和やかに会話をしながら楽しく食事していただきました。

訓練生同士が声を掛け合い、気遣いあう場面もあり、良い交流の場を提供できたと思います。

③ 視覚障害者用具の展示と斡旋

視覚障害者の日常生活を便利にするグッズを2018年度は、1,169点（2017年度1,291点）の斡旋を行いました。これらのグッズによって不便さを自ら解決できるようになり、視覚障害者の気持ちが前向きになって訓練や図書の利用に進むきっかけになるケースが多くあります。センターでは、白杖を購入される方に歩行訓練をしたり、音声時計や録音図書再生機、点字電子機器等を購入される方に



操作方法を説明したりするので、用具の紹介や斡旋を通して、当事者のQOL向上につながっていきます。視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの歩行訓練士がスタッフとして対応出来ることも大きな強みになっています。

④ ボランティアの育成と連携

センターを活動拠点としているボランティア団体、水車の会、デイジー川崎、川崎パソコンユーザー会の活動日（毎週火曜日）に、当センターの多目的室、および録音室を使用いただいています。また、年に一度の施設公開イベント「川崎アイ eye センターまつり」では、川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（オブリガード）と共同で開催いたしました。

⑤ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体への協力と啓蒙・普及

(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体への協力

- I. 2018年6月9日 神奈川県ライトセンター 「音楽祭」・・・用具展
- II. 2018年6月19日 平塚盲学校 弱視レンズ等体験展示会・・・用具展
- III. 2018年8月26日 日常生活用具研修会 IN 川崎市視覚障害者福祉協会・・・用具展
- IV. 2018年9月29日 川崎市視覚障害者福祉協会麻生支部
・・・音声解説付きDVD映画体験上映会の開催
- V. 2018年12月1日 川崎区社会福祉協議会福祉まつり・・・運営協力
- VI. 2019年1月30日 川崎市視覚障害者福祉協会婦人部
・・・音声解説付きDVD映画体験上映会の開催
- VII. 2019年3月19日 ウェルフェアイノベーションフォーラム2019
・・・視覚障害体験・用具展

(イ) 啓蒙・普及

市内の小中学校などにおいて、道や駅で困っている視覚障害者に声をかけ、簡単な手引きができるように白杖歩行体験、誘導の仕方を指導しました。また、民生委員や誘導グループの方々に視覚障害についての講演をしたり、県内の盲学校での音声解説付き映画体験上映会などを行いました。2018年度の新たな試みとして、隣接するこども文化センターと連携し、ゲーム感覚で視覚障害を理解する「夏休みこどもクエスト！」を開催しました。小学校低学年の子供たちに、楽しみながら色々な体験をしてもらいました。



I

- II. 2018年6月7日 小田地区民生委員見学対応 (11名)
- III. 2018年6月26日 日々輝学園高校 (約15名)
- IV. 2018年7月18日 川崎市立川崎小学校見学対応 (15名)
- V. 2018年8月3日 夏休みこどもクエスト! (30名)
- VI. 2018年8月17日 社会福祉職を目指す学生見学対応 (2名)
- VII. 2018年8月28日 相模原誘導グループささの会見学対応 (8名)
- VIII. 2018年9月19日 川崎市立田島中学校 (約150名)
- IX. 2018年10月23日、30日 川崎市立宮内中学校 (約220名)
- X. 2018年12月5日 日吉第二地区民生委員との懇談会 (24名)
- XI. 2019年3月13日 横浜市立盲特別支援学校 (3年生)

⑥ 広報活動とイベントの開催

(ア) センター事業の広報

I. 福祉まつり

遠方のためセンターに足を運ぶ機会の少ない川崎市の北部地域の視覚障害者のために、麻生区、多摩区、宮前区の福祉まつりに参加しました。点字図書・録音図書、音声パソコン・便利グッズ、最新機器などが体験できるようにし、視覚障害の啓発用に白杖体験もできるようにしました。参加者は、多摩区124名(内視覚障害者20名)、麻生区45名(内視覚障害者5名)、宮前区74名(内視覚障害者1名)。福祉まつり

は、全体的に子供たちへの障害啓蒙のイベントのようです。当事者の方にセンターのことをご説明する機会はあまりありませんでした。2019年度は、視覚障害者と接する機会のある地域包括支援センター、障害者相談支援センターなどに、事業紹介を行っていきたいと思います。

II. 訓練事業説明会

目が見えにくくなって生活上の不便さを感じている方々にセンターに繋がってもらえるように、毎年1回、主に行政の障害者担当や障害者施設の方々に対して、当センターの訓練事業説明会を行っています。2018年度は7月4日(水)に開催しました。

川崎市内の関係施設130箇所に案内文を送付し、役所の障害者担当、民間の障害者支援施設職員、盲学校の教員、点字図書館の職員など12名の方に参加していただきました。

III. 川崎アイ eye センターまつり

前日から最強寒波に見舞われ、早朝は雪が降るあいにくの天気となってしまいましたが、1センチほど積もった雪も雨に変わり、無事にオープンすることができました。視覚障害に関わる様々な体験コーナー、ボランティア団体の活動紹介、ワンコインマッサージ、ワンコインネイル、ヴァイオリンコンサート、最新機器体験会などを行ないました。2階ホールは催し物会場となっており、11時から川崎市の音訳グループ5団体による恒例の「朗読ミニライブ」、午後からは「穴澤雄介ヴァイオリンコンサート」を行いました。2階の各部屋では、点字、音声パソコン、スマートスピーカー(Google Home)の体験、盲導犬体験、川崎市視覚障害者福祉協会によるワンコインマッサージ、最新の視覚障害者用機器体験会を行いました。3階は、インターネット上の電子図書館「サピエ図書館」、点字図書・録音図書、iPad、UDCast、音声解説付きDVD映画などの体験コーナーです。今年は出展型ネイルサロン「ネイルルブラユ」が初出展し、大人気でした。3階奥の休憩室では、例年大人気のパンの販売、スターバックス コーヒー ジャパンによるコーヒーの無料サービスに加え、ボランティア団体による紅茶、緑茶、お菓子のサービスもあり、みなさんホッとした様子で温かいコーヒーやお茶を楽しんでいました。

この「川崎アイ eye センターまつり」は、オブリガード(川崎市視覚障害者ボランティア連絡会)と共同で開催しています。来場者の誘導、休憩室での飲み物サービスなどオブリガードの活躍によって、当日の来場者にとっても満足度の高い対応をすることができました。(来場者170名)

<ヴァイオリンコンサート>



(イ) イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害者にもその流れを感じてもらうために、センターでは文化を発信するためのイベントを多数開催しています。

2018年度は定例イベントとして、音声解説付きDVD映画体験上映会（毎月）、歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ：隔月）、ヨガ体験会（10回）、読書会（年2回）、春のコンサート、冬のコンサートを開催しました。

I. 音声解説付きDVD映画体験上映会

「映像のまち・かわさき」を、市内の視覚障害者の方々に感じていただくため、音声解説付きDVD映画体験上映会を毎月1回、開催しました。特に12月にご覧いただいた「俺たちの交響楽」は70年代の川崎が舞台となった青春喜劇で、地域の方々に懐かしくお楽しみいただきました。（来場者合計413名。平均34名）

※ 外部からの上映依頼により、センター外で2回映画会を開催。

- ・ 9月29日視覚障害者福祉協会麻生支部（北部リハビリテーションセンター）
- ・ 2019年1月30日視覚障害者福祉協会婦人部（北部身体障害者福祉会館）

II. 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）

国立国会図書館の音源コレクションをご紹介しますイベントとして年6回奇数月に歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」を開催しました。1920年代から60年代にかけ

での演奏や記録音源などを、毎回テーマを決めて聴いていただきます。また曲が始まる前には、その時代背景、曲にまつわる様々な逸話を解説いたします。「浪花節」や「ロシア民謡」など最近あまり聴かれなくなったジャンルの特集は、とても喜ばれました。（来場者合計 46名。平均8名）

III. ヨガ体験会

視覚障害者の多くはエクササイズを行う機会があまり無いのが現状です。ヨガは、室内でできる安全なエクササイズですので、とてもニーズのあるプログラムです。親子やご夫婦でのご参加もあり、和気藹々と大変和やかで楽しい体験会になっています。

2018年度は10回開催し179名の参加がありました。参加者から「是非、毎月開催してほしい。」との要望がありましたので、2019年度も2月、8月を除き、ほぼ毎月開催することにします。

IV. 読書会

読書会是一个の作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。年2回、春と秋の時期に行われ、盲人図書館時代から続く歴史ある行事となっています。

■2018年6月8日 春の読書会 エポックなかはら（参加者 9名）

■2018年12月1日 秋の読書会 川崎市視覚障害者情報文化センター
（参加者5名）

V. かわさき春と冬のコンサート

当センターでは、文化活動の一環として春と冬の年2回、コンサートを開催しています。

5月12日（土）の春のコンサートではサクソフォーンカルテット「颯（はやて）」によるサクソフォーンの4重奏を楽しんでいただきました。クラシックの名曲、みなさんご存知の民謡などをアレンジしたすばらしい演奏に皆さんが魅了されたコンサートでした。（来場者158名）



春のコンサート

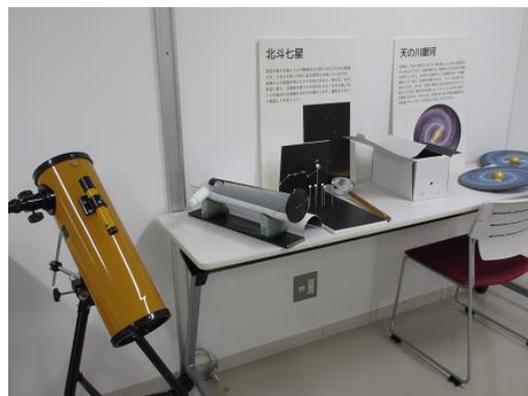
冬のコンサートは12月8日（土）JAZZ バンド「STEPS ステップス」による7人編成の豪華なジャズライブを楽しんでいただきました。これは、是非ジャズを聴きたいというリクエストに応えたもので、楽しみにしていた多くのジャズファンが来場され、スタンダードな名曲をたっぷり楽しんでいただきました。（来場者約110名）



冬のコンサート

VI. ふれる博物館「宇宙をさわる」

日本点字図書館では、視覚障害者に触ることの大切さを伝えたいと考え、2017年11月10日ふれる博物館をオープンしました。その第2回企画展“宇宙をさわる”を2019年1月10日（木）～12日（土）当センターで開催しました。有人宇宙船「スペースシャトル」、日本の探査機「はやぶさ」、小惑星「イトカワ」、ハワイにある世界最大級の望遠鏡「すばる望遠鏡」などの模型を触ったり、太陽系の惑星の大きさの違いをボールの大きさに理解したり、惑星間の距離をひもの長さで体感していただきました。最終日には、国立天文台の特任専門員の臼田-佐藤 功美子氏に講演していただきました。3日間で85名の来場があり、特に講演会は大盛況でした。



VII. ミニ機器展の開催

最新の機器、話題の商品をじっくり見たいという要望に応えるために、機器を扱う業者に数社協力いただきセンター内で展示会を開催しました。また、総合読

書システム「マイブック」の新バージョンが発売になったため、マンツーマンで体験できる展示会を開催しました。

■2018年9月8日ミニ機器展

来館者数 50名（内、視覚障害 31名）

■2018年12月1日マイブックV体験会

来場者 6名（全員視覚障害者）

3. 利用状況

(1) 閲覧・貸出

	2018年度	2017年度
① 利用登録者数	479名	446名
(新規登録者数)	33名	22名
(点字使用者数)	129名	123名
② 利用登録団体	278施設	275施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,075タイトル	2,933タイトル
(冊数)	11,180冊	10,814冊
蔵書数の変化 (新収書)	129タイトル	130タイトル
	358冊	368冊
貸出数	297タイトル	289タイトル
	987冊	976冊
(内 他館借受)	65タイトル	59タイトル
	202冊	179冊
(雑誌)	243タイトル	288タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	29タイトル	0タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	5,640タイトル	5,619タイトル
(枚数)	5,673枚	5,623枚
蔵書数の変化 (新収書)	311タイトル	278タイトル
	312枚	283枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	23タイトル	21タイトル
	107巻	95巻
(イ) CD図書	9,003タイトル	9,563タイトル
(内 他館借受)	5,684タイトル	5,929タイトル
(ウ) カセットテープ雑誌	31タイトル	42タイトル

(エ) CD雑誌	4,435 タイトル	4,506 タイトル
デージー図書コンテンツダウンロード提供		
(ア) メモリーメディア	2,220 タイトル	1,603 タイトル
(イ) CD	1 タイトル	5 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	85 件	80 件

(2) 資料製作

① 点字図書の製作数

(ア) 製作数	50 タイトル 184 冊	40 タイトル 158 冊
内訳		
委託製作数	17 タイトル 64 冊	17 タイトル 79 冊
委託外製作数	33 タイトル 120 冊	23 タイトル 79 冊
(イ) 寄贈	14 タイトル 35 冊	21 タイトル 42 冊
(ウ) プライベートサービス	22 タイトル	25 タイトル

② 音訳図書の製作数

(ア) 製作数	100 タイトル	104 タイトル
内訳		
委託製作数	77 タイトル	86 タイトル
委託外製作数	23 タイトル	18 タイトル
(イ) デイジー編集	100 タイトル	104 タイトル
(ウ) 寄贈	27 タイトル	32 タイトル
(エ) プライベートサービス	12 タイトル	9 タイトル
内訳		
音訳	3 タイトル	6 タイトル
テキストデイジー	4 タイトル	3 タイトル
PDF	3 タイトル	0 タイトル
テープのデイジー化	2 タイトル	0 タイトル

③ テキストデイジー図書の製作数	6 タイトル	7 タイトル
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数		
製作数	21 タイトル	21 タイトル
内訳		
センター内製作数	9 タイトル	6 タイトル
委託製作数	12 タイトル	15 タイトル

(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成

① 点訳ボランティアスキルアップ研修会

開催回数	5 回	2 回
受講者数	79 名	50 名

② 音訳ボランティアスキルアップ研修会

開催回数	1 回	14 回
受講者数	1 名	14 名

③ 音訳ボランティア養成講座

開催回数	16 回	- 回
延べ受講者数	137 名	- 名
実受講者数	10 名	1 名

④ 音声ガイド養成講座

開催回数	4 回	8 回
延べ受講者数	46 名	72 名
実受講者数	12 名	9 名

(4) 訓練・相談事業の取り組み

① 訓練

訓練者実数	42 名	619 回	48 名	600 回
(新規訓練者数)	15 名		19 名	

内訳 (複数提供あり)

歩行訓練	22 名	314 回	20 名	310 回
パソコン訓練	9 名	164 回	11 名	119 回
点字訓練	4 名	87 回	6 名	144 回

	生活訓練(日常・調理)	1名	25回	6名	16回
	その他	6名	29回	5名	11回
②	相談	150名	296回	132名	261回
③	用具の展示と販売紹介	展示点数	290点	323点	
		販売紹介点数	1,169点	1,291点	

(5) 啓発普及

① 事業報告会等の開催

7月 視覚障害者訓練事業説明会 参加者数 12名

② 福祉まつりへの参加

6月 多摩市民館(多摩ふれあいまつり) 参加者数 124名

11月 麻生市民館(あさお福祉まつり) 参加者数 45名

宮前市民館(みやまえ福祉フェスティバル) 参加者数 74名

③ 授業・講座への講師派遣

6月 日々輝学園高校「障害者理解」 参加者数 15名

川崎小学校「視覚障害者との接し方、生活の工夫について」

参加者数 120名

平塚盲学校 弱視レンズ等体験展示会 参加者数 40名

7月 川崎小学校「点字、用具、日常生活について」 参加者数 15名

9月 田島中学校 総合学習 視覚障害者を招いての講演会

参加者数 150名

10月 宮内中学校

「福祉学習の一環で白杖体験」(全2回) 延べ参加者数 222名

④ 訓練生交流会 開催数1回 参加者数 4名

⑤ イベントの開催

5月 かわさき春のコンサート 来場者数 158名

6月 読書会&心と体の健康ミニ講座 参加者数 9名

8月 夏休みこどもクエスト! 来場者数 30名

9月 視覚障害者用具ミニ機器展 来場者数 50名

10月	訓練生屋外交流会（横須賀くりはま花の国）	参加者数	21名
12月	読書会『羊と鋼の森』『モンスーンの贈りもの ーこの地球を生きる子どもたちー』	来場者数	5名
	マイブックV体験会	来場者数	6名
	かわさき冬のコンサート	来場者数	110名
1月	宇宙をさわる展	来場者数	85名
2月	川崎アイ eye センターまつり	来場者数	170名
	音声ガイド付き体験上映会	開催数 13回	延べ来場者数 413名
	歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」		
		開催数 6回	延べ来場者数 46名
	ヨガ体験会	開催数 10回	延べ来場者数 179名